

観覧無料

グランシップ館内で
開催中

めぐりアート⁺とは

静岡市内のさまざまな場所を会場に開催されている展覧会「めぐりアート静岡」。
(主催:静岡市、静岡県立美術館、静岡市美術館)。*今年度会期:10月22日~11月10日
「めぐりアート+(プラス)」は、これまで「めぐりアート静岡」に関わったアーティスト
への新たな発表の場の提供に加え(プラスし)、グランシップにご来館のみなさまに
日常的にアート作品に触れていただくことを目的とした、あたらしい展覧会です。館内の
さまざまなスペースに、年2組のアーティストの作品を展示していきます。

佐藤 浩司郎(さとう こうじろう)

1967年 静岡県下田市に生まれる。1991年 大阪芸術大学
卒業。キリンプラザ・コンテンポラリーアワード(1991)
及び吉原治良賞(1992)入選。大阪府立現代美術センター
(1992)、信濃橋画廊(1993/大阪)、牧神画廊(2007/
東京)、CCC(2013/静岡)、金座ボタニカ(2015/静岡)
など県内外で個展開催。伊豆ビエンナーレ(2013)、伊豆
高原アートフェスティバル(2015)、小田原ビエンナーレ
(2017)など地域の芸術祭に参加。2019年3月には、
「めぐりアート静岡」の関連イベントとして、東静岡
アート&スポーツ/ヒロバにて作品展示とワークショップ
を行った。



作家紹介

佐藤浩司郎はしばしば、「絵画をどう成立させるか」と記しています。それは、今、絵画
とは何か、どんなリアリティを持つのか、という問いともいえましょう。佐藤の探求は
遠心的です。写っているものをギリギリまで量かした写真や、特注した磨りガラスが
鈍い光を放つ「画面」といった、見ることと見えるもの、あるいは感覚と認知との
不連続性を手がかりに「絵画」の在りかを探ってきました。また流木やミニカーや人形に
ペイントしたり、それらをワークショップの参加者と一緒に壁や床の上で並び替えたり
する、遊びのような行為を通し「絵画」を模索。今回は、リサイクルの衣料が孕む喚起力
を借りて、色彩と現実と想像力が入り交う「絵画」すなわち疑問符の提示を試みます。
(めぐりアート+キュレーター 白井嘉尚)

2019. 2020.
10.11(FRI) ▶▶▶ 4.13(MON)

ぼくを
わたしを
さがして

Sato Kohjiro

佐藤浩司郎

岡田めい 1歳6ヶ月
篠塚玲雄 5歳
篠塚咲 7歳
山本優佳 26歳
片山将史 28歳

みな架空の人です。服や物を手がかりに
どんな人だろう？どんな生活をしているのかな？何が好きかな？
そんなふうに自由に思い描いてください。

そして 色って 絵って アートって なんだろう？
想像するってなんだろう？
そんなことを考えてみませんか？

いるはずのない人物に
おもいをめぐらせながら...



ぼくを わたしを さがして

ショーウィンドウ / エントランスホール / 3F エスカレーター付近

「ようこそ」

こころときめく
デビューのように

「まとい まとわれ」

布が舞い
ただよう ように

「JOY」

子どもが
あそぶ ように



“ぼくを わたしを さがして” 2019

絵画表現いたします

3F、9F、10F、11F、12Fエレベーターホール／11F、12Fロビー

「七間町マルシェ」「キッズ☆アトリエ」など静岡市内で行われたワークショップで、
参加者が佐藤浩司郎と一緒に制作した絵画作品、約50点を月替わりに展示します。
無作為がもたらす美しい色合いをお楽しみください。